



第15位 純白の名牝

10265 P

NEW

ソダシ

2018年3月8日生 牝 白毛  
父クロフネ

母ブチコ(父キングカメハメハ)

馬主/金子真人ホールディングス(株)

調教師/須貝尚介(栗東)

生産牧場/ノーザンファーム

通算成績/16戦7勝

総取得賞金/6億2923万4000円

主な勝ち鞍/

22ヴィクトリアマイル(G I)

21桜花賞(G I)

20阪神ジュベナイルフィリーズ(G I)

21札幌記念(G II)

20アルテミスS(G III)

20札幌2歳S(G III)

馬名の由来/純粋、輝き(サンスクリット語)

## 年代別・性別ランキング

女性からの  
支持が厚い

●10代……14位	●60代……24位
●20代……16位	●70代……34位
●30代……14位	●男性……31位
●40代……13位	●女性……8位
●50代……17位	

## Voter's Voice

誕生自体奇跡である白毛馬がG I制覇するところを生で見る事ができたことに幸運を感じた(40代・男性)●実力だけではない歴史的に意味のある存在(60代・女性)●ソダシのおかげで競馬を知りました(20代・男性)●強さとアイドル性を兼ね備えた最強牝馬だと思います(10代・男性)●強さ、美しさ、人気全てを兼ね備えた名馬です(60代・女性)●桜花賞で白い姿が抜け出た時は感動した(20代・女性)

ソダシは走るたびに記録を塗り替えていった。2020年7月に函館競馬場でのデビュー戦を白星で飾ると「白毛初のJRA芝の新馬勝ち」と言われた。続く札幌2歳Sは「白毛初のJRA芝の重賞勝ち」になった。年末の阪神ジュベナイルフィリーズを制すると「世界初の白毛のG I馬誕生」と騒がれた。常に「白毛初」がついて回った。祖母シラユキヒメ、母ブチコと牝馬3代続く白毛血統だ。その毛色にばかり目を奪われがちだが、シラユキヒメはサンデーサイレンスの娘であり、ブチコはキングカメハメハの娘だ。そのブチコとクロフネを交配して誕生したのがソダシである。リーディングサイヤー2頭を含め、名馬の粋を集めた血

かわいいだけじゃない、  
実力も備えたG I馬

統といえる。かわいい見かけだけじゃない真の実力を備えた「ツヨカワ」であることを証明したのが桜花賞だ。1000m通過56秒8というハイペースを3番手で追走し、最後まで粘り強く走った。優勝タイムは1分31秒1。3歳の春に牝馬が残したコースレコードは今でも健在だ。ソダシの優秀さを物語る記録である。

桜花賞を制し、無傷の5連勝で臨んだオークスで初めての黒星を喫する。好位を進んだが最後の直線で伸びきれず8着に終わった。優勝したのはユーバーレーベン。4度目の顔合わせで初めて先着を許した。ユーバーレーベンの父はゴールドシップだった。ソダシの須貝尚介調教師がかつて手掛けた芦毛のG I6勝馬である。時は巡って敵に塩を送った形になった。